

Frente

三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

vol.66
2016.8

♪ 秋のイベント
大特集 ♪

男女共同参画フォーラム「みえの男女^{ひと}2016」

最強。パバ伝説「蝶野正洋という生きかた」

三重県内男女共同参画連携映画祭

10周年記念上映「わたしはマララ」ほか

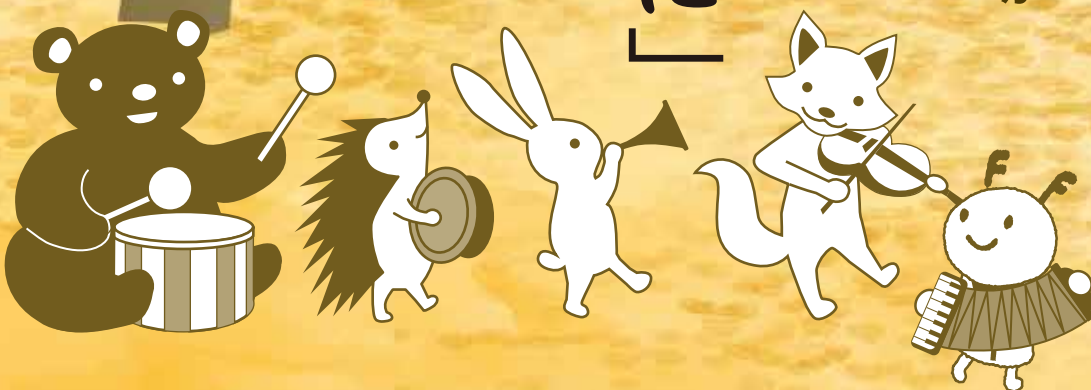
「今そこにある未来のために」

Report

- フレンテまつり
- I LADY. in みえ
- 地域リーダー養成講座
男女共同参画の視点から
相談支援を考える。ほか

不定期連載インタビュー

フレンテイが聞く!みえのひとびと
African Hands レーナー八千代さん



秋のイベント大特集

11月 6日 男女共同参画フォーラム ～みえの男女2016～ 企業も人も幸せになる、これからのWork & Life Style [仕事と介護の両立編]

基調講演

≪土堤内昭雄さん(ニッセイ基礎研究所 主任研究員)≫

少子高齢化が及ぼすさまざまな影響により、日本の労働力人口は減少の一途をたどっています。男女共同参画の推進はもちろんのこと、加えてこの課題を克服するために、「男女共同参画フォーラム～みえの男女(ひと)～」では、2014年からワーク・ライフ・バランスやダイバーシティ、イクボスについて考えてきました。

そして、今年は「仕事と介護の両立」を考えます。

今や日本の高齢化率は26.7%となり、高齢者の要介護者数も急速に増加しています。誰もが介護とは無関係でいられなくなり、そんな現状をみて国は「介護離職ゼロ」を掲げました。

仕事と介護を両立できれば、企業は育成した貴重な人財の流出を防ぐことができ、働く人は自立した生活を継続することができます。また仕事と介護を両立しながら活躍できる職場は、誰もが活躍できる職場であり、企業の生産性や創造性を高め、利益の拡大につながります。

仕事と介護を両立するには何が課題になるのか、それに対し企業は、人はどのように取り組んでいけばよいのか、みんなで考えましょう。

分科会

- ①仕事と介護の両立支援～介護離職ゼロをめざして～
講師：平井千恵子さん(三重労働局雇用環境・均等室 室長)
主催：フレンテみえ
- ②迫りくる「息子介護」
～現状とその背景 男性が抱えやすい困難とは？～
講師：平山亮さん(東京都健康長寿医療センター研究所 研究員)
主催：フレンテみえ
- ③なるほど！社会保障の基礎知識
講師：石塚哲朗さん(三重大学人文学部准教授)
主催：三重大学男女共同参画推進室
- ④どう活かす？伊勢志摩サミット どう活かす！女性の能力
講師：石阪督規さん
(東京未来大学モチベーション行動科学部教授)
主催：男女共同参画みえネット

パネルディスカッション

- パネリスト 平山亮さん(東京都健康長寿医療センター研究所 研究員)
平井千恵子さん(三重労働局雇用環境・均等室 室長)
久保田久美さん((一社)三重県介護支援専門員協会 理事)
コーディネーター 土堤内昭雄さん(ニッセイ基礎研究所 主任研究員)

日時：11月6日(日) 10:00～16:00

10:00～12:00 分科会

13:00～13:10 開会・あいさつ

13:10～14:20 基調講演

14:35～16:00 パネルディスカッション

場所：三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」多目的ホールほか

対象：全ての方

料金：無料

主催：三重県

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

10月 1日 三重県内男女共同参画連携映画祭 10周年記念フレンテみえ上映会「わたしはマララ」(字幕)

今年は、連携映画祭10周年を記念し、フレンテみえでも8年振りに上映会を開催します！命の危険に晒されながらも女子が教育を受ける権利を訴え続け、世界を変えるほどの活動を行いながらも、家族や友だちと一緒にいるときなどのプライベートでは10代のごく普通の少女、マララ。そんな彼女のさまざまな姿や思いを見ることができるドキュメンタリーです。当日は映画上映だけでなくトークイベント、フェアトレードショップの紹介なども開催予定。お楽しみに！

●10月11日は国際ガールズデー

「わたしはマララ」が上映される10月は、世界中の女の子たちを力づけるために、国連に加盟する100カ国以上の賛同を得て制定された「国際ガールズデー(毎年10月11日)」の月でもあります。

世界では、将来の稼ぎ手として期待できない女の子が、家計への負担などから、学校へ行くことも許されず、働いたり早くに結婚させられたり……。自分の人生が自由に選択できることすら知りません。

マララさんが訴え続けた「女の子や女性たちに教育や学ぶ機会をもたらすこと」は、彼女たちだけでなく、家族や地域、国にとって豊かになる一歩でもあります。

●私たちができること フェアトレードについて

世界の女性の支援をするために、私たちができることとして、ボランティアや募金活動以外にもフェアトレードの利用があります。

フェアトレードとは、作物や製品を適正な価格で継続的に取引することによって、生産者の持続的な生活向上を支える仕組みで、私たち消費者が自分の気に入った商品を購入することでできる、身近な国際協力のかたちです。



©2016 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.

日時：10月1日(土)

13:30～16:30

会場：三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」多目的ホール

対象：全ての方 定員：300名

料金：無料

10月
16日

フレンテみえ男性講座

最強パパ伝説「蝶野正洋という生きかた」

同時開催：第3回「ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」表彰式

プロレス界のレジェンド、「黒のカリスマ」の異名をとる蝶野正洋さんがフレンテみえに登場!!!

海外での武者修行をきっかけに国際結婚、2人のお子さんがいらっしやる蝶野さん。

強面でヒール(悪役)の印象が強く、家庭の中でも「亭主関白で、子どもには背中中で語る親父」像を思い浮かべてしまいますが、実際はどのようなのでしょうか。

子育てへの関わり方、妻とのパートナーシップ、そして社会貢献活動。鈴木英敬三重県知事とのトークで、リングの外でも最強の蝶野さんの生き様に迫ります。

家庭や地域でステキな子育てをしている男性や、部下の仕事と育児の両立をしっかりと応援してくれる上司(イクボス)を自薦・他薦で募集した第3回「ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」の表彰式を同時開催。



【プロフィール】 蝶野 正洋さん

1963年生まれ。2歳までシアトルで過ごし、東京都三鷹市で育つ。1984年新日本プロレス入門。同年10月5日、武藤敬司戦でデビュー。1991年第1回G1クライマックスで優勝し、その後V5達成。1992年第75代NWAヘビー級王座を奪取。1996年にはnWoジャパンを設立し一犬ムーブメントを起こす。1998年IWGPヘビー級王座獲得。2010年2月に新日本プロレスを離れ、それ以降フリーランスとして活動。1999年12月にはオリジナルブランド「ARISTRIST(アリストリスト)」を設立し、代表取締役を務めている。今年4月に発足した「みえのイクボス同盟」スペシャルサポーターにも就任した。

日時：10月16日(日) 13:30～15:30

場所：三重県男女共同参画センター

「フレンテみえ」多目的ホール

対象：育児世代男性を中心とした全ての方

定員：300名

料金：無料

講師：蝶野正洋さん(プロレスラー)

鈴木英敬三重県知事

共催：三重県健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課



「Mnews」vol.115に蝶野さんインタビュー掲載!!!

10月16日のイベントに先立ち、蝶野さんにインタビューをしてみました!妻のマルティーナさんとの出会いや、夫婦二人三脚でのアパレルブランド経営などのお話を、三重県総合文化センター情報誌「Mnews(エムニュース)」vol.115(9月20日発行予定)に掲載いたします(ホームページでもご覧いただけます)。お楽しみに!

フレンテみえ

検索

さらに男性の方向けに!

フレンテみえ男性講座

職場でも! 家庭でも! きっと役立つ

12月
10日

男性のためのコミュニケーショントレーニング

～知っておきたいアサーティブ～

男性の皆さん、「アサーティブ」ってご存知ですか?

これは、人を攻撃することなく、自分を押し殺すこともなく、相手も自分も尊重したコミュニケーションのこと。

日々の生活の中で「もう少し上手な言い方ができていたらもっといい結果になっていたかも・・・」なんて思ったことがある方。この講座では、職場や家庭、あらゆる場面で「円滑な人間関係づくり」に役立つコミュニケーションスキル「アサーティブ」をご紹介します!

この日から、きっとあなたの毎日が変わります!

日時：12月10日(土) 13:30～16:00

会場：三重県男女共同参画センター

「フレンテみえ」2階 セミナー室A

対象：20～40歳代を中心とした男性

定員：先着20名

料金：無料

講師：大井健司さん(特定非営利活動法人アサーティブジャパン認定講師)

不定期
連載

フレンティが聞く!

みえの ひとびと

第5回



今回の「みえのひとびと」は、10月1日の「わたしはマララ」上映会に合わせ、世界の女性とともに歩む「みえのひと」をご紹介します。

松阪市にあるAfrican Handsは、高校の同級生だった刀根泉さんとレーナー八千代さんが設立。ウガンダの女性やタンザニアのアーティストによって作られた雑貨や絵画を扱うショップで、全国の百貨店でも催事を展開しています。今回はレーナー八千代さんにお話をうかがいました。

レーナー八千代さん

●African Hands●



—取組のきっかけについて教えてください。

お店をすることになったのは、2010年にウガンダにひとり旅で訪れたことがきっかけでした。

「アフリカ」大陸に憧れて、「アフリカ」「女人旅」「安全」のワードでヒットしたのがたまたまウガンダでした。

そのウガンダで出会った女性達のファッションに大きな衝撃を受けました。どの女性も色鮮やかな洋服を身にまとい、原色に原色を合わせているにも関わらずとてもオシャレに着こなしていました。スラム街に行っても、みんなマニキュア、ペディキュアしている。その美の感覚とか、すごくパワフルで元気。

「このウガンダママ達と日本人の私とで一緒に何かできないかな?」と思いました。

—そこからお店につながっていくんですね。

現地につなげてくれる人が見つからず、思いきってウガンダ大使館に連絡をとってみたら、大使が名古屋にいらっしゃる予定があるので、「そのとき会いますか?」と言っていたいたんですね。それで「行きます、行きます!」って。

それから大使に紹介してもらったウガンダママ達30人くらいのグループと活動をはじめました。

最初、彼女たちは「ボランティアが日本からやってくる」「私たちを助けてくれる」という感覚だったんですね。でも私はボランティア活動をしたい訳ではなくて、ビジネスを通して共に成長したいと考えていました。ボランティアだとどうしても上下関係ができてしまいます。そうではなくて、同じ土俵で同じレベルでウガンダの女性と日本の女性が力を合わせ今までにない商品を作りたいと考えました。



ウガンダのママ達も最初は「え?」って感じでしたけど、最終的には「おー!」という反応が返ってきて、理解してくれました。

—今では、全国の百貨店でも催事をされていますが?

最初は松阪のお店で売っていただけなんですけど、百貨店での販売のお話をいただき現在は北海道から福岡まで全国の百貨店で、アフリカで手掛けた世界でたった一つの商品を催事販売させてもらっています。

ウガンダママ達も自分たちが作った商品が日本の高級百貨店で販売されているということにとっても誇りをもっています。私も彼女達に「日本の百貨店で売れるクオリティーの商品ということはどこの世界でも売れる」と伝えています。そのプライドを持ってやっていこうって。

—アフリカ、ウガンダの人たちと働いてみていかがですか。

時間を守らなかったり、詰めが甘かったり、苦勞するんじゃないかと相当な覚悟をしてこのビジネスをスタートしました。しかしいざ女性達と仕事を初めてみるとそうでもないことにすぐに気づきました。ほとんどのママ達が今まで現金収入を得る機会がない女性達ただけに、自分の作ったものがお金に変わるという喜び。また自分の子どもたちの教育費を稼ぐんだ!という意欲でやる気満々なんです。私も気合を入れて頑張らない!と思わされます。

—女性が置かれている状況は?

ウガンダも男尊女卑がある国で、食卓で椅子に座って食べるのは男性だけなんです。あからさまに、女は下みたいな。私たちは下で座りながらワイワイ食べて楽しいんですけどね。

それから男の人が稼ぐという意識が根強いので、女の人に力をつけていって欲しいと思います。私が一緒にやっているママたちは、経済的に自立した女性はいません。元々お金持ちで高等教育を受けた人は仕事をしていますけど、村で仕事をしている人はなかなかいません。

—八千代さんにとって、働くってどういうことですか?

学ぶということですね。いろんな経験をさせてもらえるし、可能性を広げるっていうか。

何をするにも勉強になります。本当にありがたいことです。

African Hands

営業日：火・木・土・日曜日
営業時間：10：00～17：00
住所：松阪市丹生寺町 475

掲載しきれなかったインタビューはホームページにて公開中です。

ウガンダの女性や子どもの現状、そして日本人とアフリカをつなぐということ。「違い」を楽しむ八千代さんのバイタリティーあふれるお話はまだまだ続きます。ぜひご覧ください。

フレンティみえ

検索

Event Report

フレンテまつり with イザ!カエルキャラバン!

日程：6月4日(土) 10:00~16:00

毎年フレンテみえ登録団体の皆さんの交流・活動発表の場として実施している「フレンテまつり」。

東日本大震災から5年となる今回のフレンテまつりは、「防災」に関連するワークショップ等を行っている団体『NPO法人プラス・アーツ』とのコラボで実施しました。フレンテまつりと防災ワークショップ、そしてお子さんも気軽に参加できるおもちゃのかえっこを組み合わせることで、子どもたちも楽しみながらいろいろなブースへ繰り返し参加する姿が見られました。

さらに登録団体の皆さんからも普段の活動発表や展示だけでなく、各団体それぞれの視点から防災を考えるブースも多数出展され、防災と男女共同参画について考えていただく機会となりました。



I LADY . in みえ

日程：6月5日(日) 11:00~16:00

三重の女性たちが“自分の体を知り、自分らしい選択する力”を考え体感するイベントとして、国際協力NGOジョイセフと共催し、ゲストのトークや体の診断などを行いました。トークではまずモデルの堂珍敦子さんから、災害時に女性におこる困難やそんな時だからこそ女性の力と意見が必要とのお話をいただきました。産婦人科医の宋美玄(ソンミヒョン)さんは、女性の体や性について、そしてその知識を持つことの大切さのお話、また男性も女性の体のことを正しく知ってほしいと語られました。そして女性のためのヨガ協会代表 仁平美香さんによるヨガ教室や体の悩みチェックも開催。みなさん実践し、「これからやってみよう」との声も聞かれました。



平成28年度 地域リーダー養成講座 男女共同参画の視点から 相談支援を考える。

日程：6月29日(水) 13:30~15:30

男女共同参画の視点をもって地域で活躍できる人材の育成を目的とした「地域リーダー養成講座」。

今年度は昨年に引き続き「フェミニストカウンセリング堺」フェミニストカウンセラーの加藤伊都子さんを講師に迎え、福祉活動など地域で相談・住民サポートに携わる方などを対象に、男女共同参画の視点を踏まえた相談支援について考える講座を開催しました。

講座では、様々な問題の背景に潜む「ジェンダー(社会的・文化的性別)」への理解を深めた上で、相談を受ける立場の人でもまず自身のなかにあるジェンダーを自覚し、社会通念やジェンダーに基づいた判断や応答をしないように心掛けることや、人々の意識が変わるのを待つのではなく、まず行動から変えていくことが大切であるなど、性的少数者やDV、母子家庭などについての様々な情報を踏まえながら、多くのメッセージが伝えられました。

昨年のご好評を受け伊勢市で開催した本講座には県南地域からも多くの方が参加。受講後は「視野が広がった」「相談支援をする立場としての心構えがよくわかった」などの声が寄せられました。



「女性と音楽」

～クラシック音楽での女性史～

今までとりあげられることの少なかったクラシック音楽史での女性の活躍について、4回にわたりコラムをお届けします。最終回にあわせて、コラムにちなんだ曲をチェンバロの音色とともに楽しむミニコンサートも開催予定！今回は「シューマン」です。

連載
第2回

『シューマン』と聞いて 思い浮かべるのは・・・？

クラシック音楽で「シューマン」という名前を聞いたことがありますか？「聞いたことがある」という方も、思い浮かべているのは「ロベルト・シューマン(以下ロベルト)」のことかもしれません。しかし、実はその妻「クララ・ヴィーク・シューマン(以下クララ)」も非常に優秀な音楽家だったと言われてます。今回は一人の音楽家として生涯現役を貫いた女性、クララの人生に迫ります。



クララの夫ロベルト・シューマンの肖像画。学校の音楽室に飾ってあるのを見たことがある人もいるのでは？

「クララ・ヴィーク・シューマン」

Clara Wieck-Schumann 1819-1896 ドイツ

クララはピアノ教師の父とピアニストで声楽家の母の第2子として生まれました。幼少期から、父の熱心なピアノ指導と本人のたゆまぬ努力により、クララは音楽家としての才能を開花。9歳になると地元ドイツで演奏家としてデビューを果たし、10代になるとウィーン、パリへも演奏旅行に出て、着実に音楽家としてのキャリアを積んでいきました。

そんなクララの演奏を聴き、クララの父に弟子入りしたのが、後の夫ロベルトです。クララとロベルトは共に学び、やがて恋におちました。ところがクララの父は猛反対します。幼少期より娘を一流の音楽家として成功させるために教育を施し、やっとクララの活動が軌道に乗り始めた時に、当時まだ無名なロベルトに惹かれていく姿が、父親として快くは思えなかったのでしょう。そんな思いから、これまでクララの演奏旅行に必ず付き添い、広報や様々な交渉事を一手に

引き受けていた父が、パリへの演奏旅行にクララ一人で行かせようとしていました。これでクララは父親のありがたみを知り、ロベルトとの恋を諦めるだろう、と考えたのです。当時は女性の一人旅はタブーとされ、主な交通手段である馬車の中では、不必要に身体に触られたり、性的な言動をされたりと女性にとって危険な状況でした。それにもかかわらず、クララは単身パリへと旅立ち、演奏旅行を成功させ、ロベルトとの結婚にこぎつけたのです。

結婚後クララを待ち受けていたのは家庭の切り盛りと子育てでした。クララは8人もの子どもに恵まれ、子育てに追われていきます。しかし多くの女性音楽家が結婚を機に引退し家庭に入る中、クララは結婚後もクララ・シューマンとして活動を続けました。それは、クララの音楽家としての収入が夫の収入をはるかに超えていたからでもあります。何よりもクララが音楽なしには生きることができない女性だったのです。

その後、夫のロベルトが病に伏せると、入院費用を稼ぐためにクララの音楽家としての活動はより活発になりました。そして1878年にはフランクフルトの音楽院の教授に就任し、演奏旅行を続けながら、71歳まで教授も続けました。

今のクラシック音楽界において、よく口にされるのは夫ロベルトの名です。しかし、当時の「女性は結婚を機に家庭に入る」という社会通念が大きくある中で、自分の生き方を貫き、晩年まで音楽の現場に立ち続けたクララ・シューマンもまた、偉大な音楽家の一人なのです。



▶ドイツ通貨の100マルク札(ユーロの前に使われていた通貨)に使われたクララの肖像画。紙幣の肖像画にまで使われたクララも日本では夫ロベルトほど知名度は高くないのが現状です。

参考文献:「クラシック音楽と女性たち」玉川裕子 編著、「女性作曲家列伝」小林緑 編著



女性のための自己尊重トレーニング

開催日:6月11日・18日・7月2日・9日・16日 各土曜日

女性のための自己主張トレーニング

開催日:5月11日・18日・25日・6月8日・22日 各水曜日

どちらも毎年人気の講座です。自分の行動パターンや思い込みを見つめ直し、自分の思いを伝えるポイントを学ぶワークや、自分の好きなどところを見つけるワークなどがありました。私たちは社会から与えられた「女性としてこうあるべき」像にとらわれていることがあります。そのため最初はなかなか自分自身と向き合うことが難しかった参加者も、回を重ねるにつれ自分の好きなどところや本当の自分らしさに気づけるようになっていきました。県内各地からさまざまな年齢の方に参加いただきましたが、共通する悩みを持っていく方が多く、グループワークを通してお互いの話を聞くことで自分自身についての理解が深まる場面もありました。今後もこの学びをもとに練習を重ねるグループ「あじさい」と「アイリス」が発足しました。



<参加者の声>

- ・社会で自己尊重するという事は難しいですが一歩一歩実践していこうと思いました。
- ・自分のことは自分で決めてよいという言葉が心に響きました。



その他こんな講座を開催しました!

7月6日(水) 育休ママのつらい 子どもができたあなたへ。『育休中に描くママのこれからの働き方』

※各イベントの詳細レポートはホームページに掲載中です!

フレンテみえ

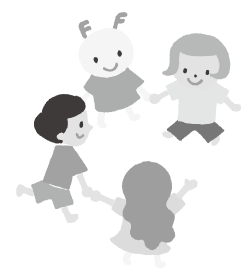
検索

第2回

【連載】ジェンダーって何？

人は女に生まれるのではない、女になるのだ

前回、「性別によって役割がある」「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」「男らしさ」「女らしさ」という考えを基にした性別を「ジェンダー」と呼ぶとお伝えしました。



今回は、その「こうあるべき」や「らしさ」は性別による固有のものなのか？について考えたいと思います。

たとえば最近では料理ができる男性も増えてきましたが、それでも日本ではまだまだ母親や妻といった女性が家族の食事を用意することが一般的ではないでしょうか。その背景には「女性が家事をするもの」というジェンダー意識があります。

しかし1500年代に日本を訪れた宣教師ルイス・フロイスは手記の中で「ヨーロッパでは普通女性が食事を作る。日本では男性がそれを作る。そして貴人たちは料理を作るために厨房に行くことを立派なことだと思っている」と記しています(ルイス・フロイス著「ヨーロッパ文化と日本文化」)。

武士が野蛮と見下され、繊細な貴族男性のほうがよいと考えられていた時代もありましたし、最近ではピンク色をファッションに取り入れる男性を町でよく見かけますが、女性っぽいという印象は受けません。

世界には男性の正装がスカートという国があります。女性にしか土地の相続権がない地域もあります。ロシアに行った旅行者たちは、「路面電車とトロリーバスの運転手が女性ばかりだ」と口をそろえて話します。

このように同じ日本であっても時代が変われば、性別による「こうあるべき」や「らしさ」は異なりますし、世界を見ると、地域によって異なることもわかります。つまり、「こうあるべき」は普遍的ではなく流動的で、固有のものではないということです。

しかし、そうはいっても「男と女では体が違うし、力が違うよね」「男性脳、女性脳って聞けど?」「性別によって特性があるんじゃないの?」と疑問を持たれる方もいらっしゃると思います。

確かに性別による傾向はあるかもしれませんが、しかし、その傾向に当てはまる人がいる一方で、当てはまらない人もいます。傾向はあくまで傾向。「こうあるべき」ではないのです。前回もお伝えしましたが、性別を血液型に置き換えるとよくわかります。仮にも血液型によって能力や性質に傾向があったとしても、だから「A型はこうあるべき」とはならないですね。

そもうひとつ。性別によって特性があるとしたら、育て方が大きな影響を与えている可能性があります。たとえば男性は将来リーダーとなるように期待されているので、そう育てようとする。女性は将来家族の面倒をみるように期待されているので、そう育てようとする。

「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」とフランスの作家シモーヌ・ド・ボヴォワールは書いていますが、女性は女性の特性とされるものを、男性は男性の特性とされるものを後天的に獲得している面も少なからずあるのではないのでしょうか。

このように、性別による「こうあるべき」や「らしさ」は、一律に持って生まれるものでもなく、固有のものでもありません。しかしジェンダー意識は非常に強く社会に根づいています。今回はジェンダーを背景に社会が抱える課題についてお伝えします。

フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ

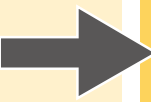
生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど…男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 **専用ダイヤル 059-233-1133**

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00～12:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00～15:30	休館日	●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00～19:00	※	—	—	●	—	—	—	—

※ 祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)



三重県男女共同参画センターまでのご案内

休館日 毎週月曜日 年末年始 (12月29日から1月3日まで)

交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分 ■徒歩/津駅西口から約25分 ■自転車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分 ※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター 三重県男女共同参画センター フレンテみえ 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地 TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135 URL http://www.center-mie.or.jp/frente/ E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。 Design: Graphica

フレンテみえ相談室のご案内 (切り取ってご利用ください)